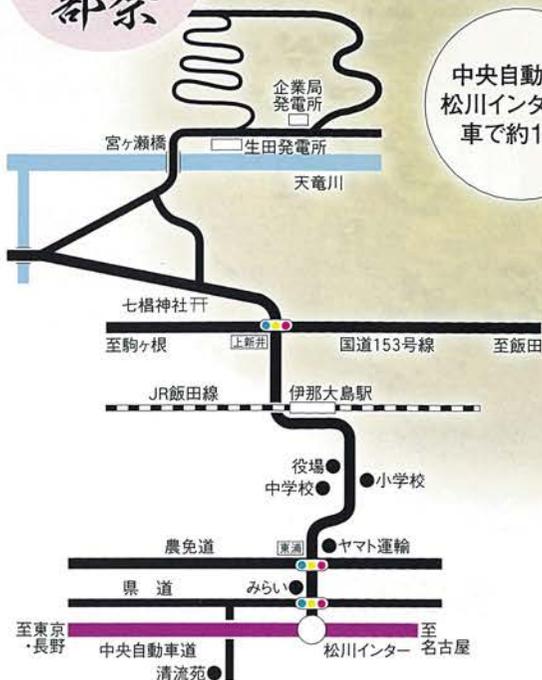


部奈



縄文、南北朝、江戸から今日まで、ずいっと人々は白い雪を頂くこのアルプスを見てきました。この石も木も、ここに暮らした人々と、喜び悲しみを共にしてきました。風に揺れる花は楽しい思い出を語っています。飛び跳ねる虫達は、昔の人に負けるなど励ましています。ここには今も、昔と同じ風が吹いています。あなたも日本の原風景の中で、風と話してみませんか。

部奈



交通のご案内

中央自動車道
松川インターより
車で約15分

さとやま自然園からの中央アルプス



問い合わせ先

アルプスビューファームズ 部奈
☎090-1865-4433

縄文遺跡 お祭り広場



●縄文のお祭り広場

石組みを取り囲んだ縄文の人々の歓声が聞こえますか。子孫繁栄と豊穡を祈っています。このような祭祀の遺跡が出土するのは珍しいとのこと。部奈はその頃から安全で住みやすい場所で、多くの人々が住んでいたと思われます。目の前に見える白い峰は神の降り立つ神聖な山だったのでしょうか。

桃の井城跡と建神社

南北朝の昔、桃の井城の娘「お建」は京に上り、後醍醐天皇の娘「巖子内親王」に仕えておりました。南朝方は戦況思わしくなく、姫と共に故郷へ落ち延びる途中、飯田で火あぶりの刑になってしまいました。それから650年、お建さまを里帰りさせようと、清内路の建神社から分祀をうけ、生まれた地、桃の井城跡に部奈建神社が建立されました。



●平成19年建立 部奈建神社

生魂神社と疎水記念碑



●疎水記念碑、その奥が生魂神社

高台に位置する部奈は、昔から水に苦労していました。江戸時代の末、大鹿村からはるばる引水する大工事を、皆の努力で行ないました。工事に携わった人たちは生魂神社に祀られ、今もこの地を守っています。その後、昭和の初め、事業を顕彰し疎水記念碑が建てられました。

